

令和5年度 「ハッピー♥スマイル」 第4回開催報告

【日 時】 令和5年11月19日（日）13時～

【場 所】 浅口市健康福祉センター 2階ボランティア研修室

【参加者】 保護者2名 医師1名 養護教諭1名

- 1 開 会
- 2 アレルギー情報

○成長後の果物アレルギー 花粉症に絡んで出現
(令和5年10月7日・山陽新聞)

花粉症と関連しアレルギーを起こす食物	花粉を出す植物	食 物
1	ブナ目 ブナ科 カバノキ科 シラカンバ オオバヤシャブシ	リンゴ、モモ、サクランボ、 アンズ、ナシ、洋ナシ、スモモ、 イチゴ、ビワ、 アーモンド ヘーゼルナッツ、 セロリ、ピーナツ、キウイ、 ジャガイモ 豆乳、湯葉、生もやし
2	スギ科スギ・ ヒノキ科ヒノキ	トマト、キウイ
3	イネ科カモガヤ など	トマト、ジャガイモ、メロン、 スイカ、ピーナツ、 キウイ、オレンジ
4	キク科 ブタクサ	メロン、スイカ、 キュウリ、バナナ
5	キク科 ヨモギ	ニンジン、セロリ、 マンゴー

(大谷智子・和洋女子大客員教授の講演資料から作成)

成長後の果物アレルギー

花粉症に絡んで出現

幼ころはリンゴを食べられていたのに、中学生になったらかゆくなった。喉が腫れたりするようになった。花粉に含まれる抗原(アレルギーのもと)と似た構造の抗原を含む果物を食べたときに起きるため、ある程度成長してから花粉症になって生じる花粉-果物アレルギーだ。

スギでは少ないが、厄介なのが北海道から九州まで広く分布するハンノキなどの花粉だ。リンゴやモモ、ナシといったバラ科の果物で発症する。豆乳や生のもやしという、ちょっと特殊な例もあるという。

小児科医の大谷智子と洋女子大客員教授が東京で開催の日本思春期学会で、大

学病院での経験などを基に講演。注意を呼びかけた。大谷さんによれば、ここ10年ほどで子どもたちがアレルギーを起こす食物の傾向が変わったと指摘する。「症例が少なかった食物のアレルギーも増えました」。回転ずしで人気のイクラや流行のナッツなどだ。一方で、中学生以降の発症が多かった果物アレルギーは発症の低年齢化が進み、最近は小学校低学年も珍しくなくなった。

花粉-果物アレルギーは、生の果物を食べたときに口の中の違和感など軽めの症状が出る。これとは別に花粉とは無関係の果物アレルギーもあり、大谷さんは小児科などで検査を受けて自分のアレルギーを知っておいた方がいいとしている。

3 情報交換

今回はインフルエンザの流行などもあり少人数でした。広島県から久しぶりに参加されました。来年度から学校給食が始まることになったが、事前の情報もなくアレルギーのアンケート調査やスケジュールの通知もないので不安だとのことでした。中学生の子どもさんはトウモロコシのアレルギーで即時型ではなく、遅発型のアレルギーとのことでした。学校からの情報がないようなら、直接管轄する教育委員会に連絡をして相談してみてください。と助言しました。

自宅でアナフィラキシーを起こしエピペンを打った経験をもう一人のお母さんから伺いました。いつもと変わらない夕食後、かゆみ、湿疹から始まりそのうちに咳が出だしてアナフィラキシーと判断しエピペンを打ち救急搬送されました。症状はすぐに改善しました。アナフィラキシーショックになっていませんでしたが、「迷ったら打つ」を実践されました。原因食材はわからなかったようです。事前にエピペントレーナーで練習しており、打つタイミングも知っておられましたが、かなり勇気がいったと思います。



次回は、令和6年1月28日（日）（次回は第4日曜日です。）
浅口市健康福祉センター2階ボランティア研修室で開催します。
情報交換の予定です。多数のご参加お待ちしております。

(浅口医師会 高山晴彦)